

広報はばたき

第59号

新発田青少年健全育成市民会議

■ 市民大会、一わたしの主張－新発田市大会

7月26日(土)、新発田市生涯学習センターを会場に、新発田青少年健全育成市民会議「市民大会」を開催し、青少年健全育成活動に長年尽力された方々への功労者表彰や記念アトラクションを行うとともに、「一わたしの主張－新発田市大会」を併せて行い、市内10中学校の代表生徒が、日頃考えている清新かつ建設的な意見を、自分の言葉で発表してくれました（発表の要旨を2～3ページに掲載しておりますのでご覧ください）。

なお、「一わたしの主張－新発田市大会」で優秀賞を受賞した5名が、8月20日(木)に聖籠町文化会館で開催されました三市北蒲原地区大会に出場し、川東中学校3年生の宮村萌々香さんが最優秀賞に輝き、地区代表として9月21日(日)に当市で15年ぶりに開催された県大会へ出場しました。宮村さんは、県大会でも最優秀賞を受賞し、関東・甲信越ブロック審査委員会に推薦され、ブロック代表として11月16日に開催される全国大会に出場します。

■ 功労者表彰

市民大会において、功労者として次の4名の方が表彰を受けられました。

受賞者

坂田	キミ	様	新発田市少年補導委員会
中村	明	様	御免町小・一中校区青少年健全育成会議
西方	淳	様	ボーイスカウト新発田第1団
宮下	正洋	様	さわやか佐々木っ子育成会

■ 記念アトラクション

記念アトラクションとして新潟県退職公務員連盟新発田支部 日本舞踊教室のお二人が市民大会に華を添え、会場を大いに盛り上げてくれました。



市民会議の活動とは

新発田青少年健全育成市民会議 会長 小出 隆一



今年度も、各自治会等のご協力のもと納入していただきました会費を活用し、7月の市民大会、一わたしの主張－などの各種事業をこれまで実施してまいりました。市民の皆様には会費の納入をはじめ、当市民会議の活動に格別なるご理解とご協力を賜り、感謝と御礼を申し上げます。

子ども達を取り巻く環境は、時代とともに変化、多様化し、ネットトラブルのような私達大人が子どもだった頃にはなかった問題が生じてきております。子ども達への対応もかつてと同じようにはいかないと感じておりますが、問題行動をとる子ども達が苦しみや寂しさなどを抱えていることは今も昔も変わらず、そのような子ども達に寄り添い、話を聞く、そのような小さなことの積み重ねが明日の新発田を担う青少年の健やかな成長につながるのではないのでしょうか。

当市民会議の活動も、派手ではなくとも子ども達と心が触れ合うきっかけとなるような活動を、今後も続けてまいりたいと考えております。引き続きご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

わたしの主張



両親は私の憧れ

豊浦中学校3年 樋口 璃子

小さい頃から両親は、私の夢を本当に大切にしてくれて、いつも私を思ってくれている。これらのことを当たり前だと思ってしまっていた自分は、本当によくないなと思った。父と母が、自分のために何かをしてくれることのありがたみや、父と母のたくさんの愛情に気付くべきだった。

そこで私は宣言する。まずはどんなに小さなことでもいい。父と母の役に立てるように、掃除、洗濯など、家事を自分から進んでやることを。そして、毎日たった一度だけでも、心の底から日頃の感謝を伝えることを。そのときは、笑顔で「ありがとう」と言いたい。これから、言葉と行動で、私のこの気持ちを伝えていきたい。今からでもまだ遅くないから、もっともっと感謝を伝えながら、恩返しをしていきたい。こんなにたくさんの愛情を注いでくれて、いつも笑顔の両親は私の憧れだ。



たった一人の家族

第一中学校3年 山崎 歩

この先、障がいを抱えている人と関わりを持つ場面では、積極的に力になれるよう、自分から動き出そうと思います。不安な気持ちに寄り添って、少しでも安心させてあげられる、そんな人間に、私はなりたいです。私がいま、心からそう思えるのは、母のおかげです。相手を思いやることの大切さを、日々実感しながら生活をしています。母との暮らしは、私にとっても大切なことを教えてくれたのです。

このことを、自分だけにとどめず、周りの人たちにも、私は伝えていきたいです。皆さん、障がいを抱えている人は、困ったときに助けてもらえると、本当に嬉しいものです。それは小さなことでも、大きな思いやりとして相手の心に届きます。相手に寄り添う、思いやりのある社会を、一緒に創っていきましょう。



言葉にしないと届かない想い

加治川中学校3年 本間 凛音

謝ることも感謝を伝えることも、私にはどちらも少し勇気のいることだ。でも、そのときに言葉にしないと伝わらない思いというのは必ずある。考えてみると、私は今まであまり家族に素直に気持ちを伝えてこなかったかもしれない。ただ、それは単純に照れくさかったからだ。

これから私は、自分の気持ちは、タイミングを逃さず素直に伝えるようになりたいと思う。そのために言葉にしなくても察してくれる、と思わないようにしたい。たとえ、気まずい気持ちや雰囲気になっても、照れくさくても、勇気を出して少しずつでも言葉にする努力をしていきたい。毎日の中でそれが私の当たり前になるといい。そうすればきっと、家族だけでなく、友達とも今よりもっと分かり合える関係を築くことができると思うから。



自分の「好き」に気付こう

佐々木中学校3年 齋藤 蘭笑

周りの人への「小さな好き」に気付くことは、自分を向上させるためにも大切だと思います。小学生の頃、私はたとえ相手が気付かないようなところでも、人を思いやった行動ができる友だちの姿に感動し、憧れました。この憧れも周りの人に対する「小さな好き」であり、これに気付くことで「あんな思いやりができる人になりたい」と自分自身を高めることにもつながるのだと、私はこの時に学びました。

また、こうした気付きによって、自分自身の行動を見直すことで、周りの人が自分の姿に小さな「好き」を感じてくれることにつながるかもしれません。私は、このようにして「小さな好き」の連鎖が生まれたら、一人一人の生活も周りの人の生活も、より明るく楽しいものになっていくと思います。

「小さな好き」に気付くことを心に留めて、笑顔あふれる、豊かな毎日を送りませんか。



自分だけの航路

七葉中学校3年 田中 成妙

私は今、目の前に広がる「進路」という大海原への出航時刻を前に怯えている。そんな中、大人になっても「毎日が挑戦の日々」という先生の言葉を聞いた。自分の未来に悩みながら、行き先もわからず舟を漕ぎ続けているんだと言った。私は今まで、周囲からの評価を気にして、夢どころか小さな目標をもつことさえやめていた。目指していること、考えていることは人それぞれ違う。けれど誰でもいくつになっても、時に航路を彷徨いながらも、希望の光を見出そうと精一杯生きている。自分をもっと信じて、自信をもって進んでいいのだ。

だから私はまず、自分のやりたいこと、叶えたいことは言葉にしていく。小さい頃、夢をもっていた自分のように。私がどんな選択をしても開ける道は必ずある。前に進むしかない。



一人になる勇氣

東中学校3年 石山 央介

現代の学校では、友達が少ない人を「隠キャ」、友達が多い人を「陽キャ」などと分類し、いわゆるスクールカーストを作る癖がある。しかし一つ覚えておいてほしい。友達が少ないのも多いのも、その人の個性や選択であり長所や短所ではないということ。このような分類する癖を消すことは難しいと思うが、スクールカーストが消えない限り、一人が好きな人も必死に友達を増やそうと自分を偽ってしまうのだ。だから言いたい、みんな、もうそんなものにしばられるのはやめよう。

一人が好きな人は一人でもいい、友達が好きな人はたくさん友達と関わってもいい。決してそれは悪いことではないことを分かっておいてほしい。我慢せずに一歩前に踏み出してみよう。きっとそこで本当のあなたに出会えるだろう。



弟と発達障がいのこれから

本丸中学校3年 石井 柚衣

弟のような症状を持つ人たちの気持ちをしっかりと理解し、サポートできるような仕事に就きたいと思っています。自分がそのような仕事に就き、関わることで、困っている人たちやその家族の心を軽くし、力になればたとえ嬉しいです。

発達障がいに対する理解はまだ足りず、障がい者に対する差別、偏見などで相手とのコミュニケーションに問題を抱え、障がい者が困っているのに助けてもらえないことがあります。私は、まず身近な弟とたくさん話し、サポートするなどできることから始めていきたいです。そして、その経験を活かして将来は医師やカウンセラーなどになり、困っている人達が悩みを話せる環境を作り、安心できるようにしたいです。そして将来は、発達障がいに対する理解をもっと社会に広めていきたいと思っています。



いってらっしゃい、おかえり

川東中学校3年 宮村 萌々香

「自分を隠すつもりはない」とがんに押しつぶされず、未来に向かって母を本当に強いと思います。私はそんな芯が強い母を心の底から尊敬しているし、母のような大人になりたいです。だから、母には立派な大人になっていく私をずっと側で見守っていて欲しいと思っています。「いってらっしゃい」と送り出し、「おかえり」と迎えてくれる毎日がずっと続いて欲しいと願っています。

母の病とともに歩む生活環境は私を大きく成長させてくれました。家族がいることは当たり前じゃない。命の大切さ、支え合って生きること、今の母の姿からどんなにつらいことがあっても簡単に諦めてはいけないということも学びました。私はこれからも、私の側に母がいてくれることに感謝して、命を大事に、毎日を大事に生きていこうと思います。だから私は毎日笑顔で言います。

「お母さん、いってきます。」



大切にしたいもの

猿橋中学校3年 新田 深花

私が感じる紙の本の良さは、記憶定着の効率や集中力の持続だけではない。「ページが進んだ」「このくらい読んだ」と感じる瞬間に喜びがある。紙をめくる感触と音は、ページが進んで話の区切りを感じさせ、次の展開へと私をワクワクさせる。本の厚さから、「こんなにも読み進めた」という達成感が得られると同時に、「もっと読みたい」という衝動に駆られる。

多くの人に紙の本の楽しさに気付いてもらいたい。年々「読書離れ」や「活字離れ」が進んでいる。電子化により、本屋や図書館なども数を減らしつつある。それでも私ははっきりと言える。「紙の本が好きだ」と。紙の本を読むときに、電子書籍の便利さに負けない楽しさを感じる瞬間がある。読者に達成感を与え、感情を豊かにさせる。電子書籍とは違う楽しさで文章に夢中になれる。これこそが紙の本による読書の楽しさだ。



跳び箱

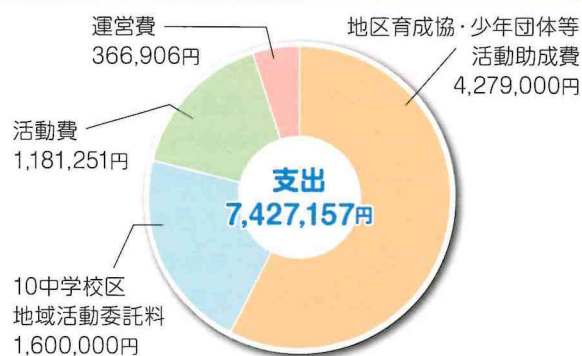
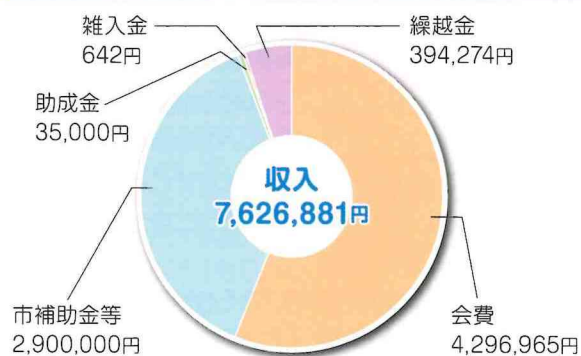
紫雲寺中学校3年 須貝 一心

何がいけなかったのかを考えて、それを実行することができれば、失敗から得られることがあると、僕は自分の跳び箱の経験から学びました。失敗を恐れて何もしなければ、きっと跳び箱は苦手なままだったでしょう。

小さいころ内気で人前に出られなかった僕は、今こうして皆さんの前に立って発表できるようになりました。跳び箱に挑戦し続けたり、小学五年生の時、新発田市で行われた二十歳の集いで小学生代表として発表をしたり、中学生になってからは生徒会役員に立候補したり、様々な場面で、失敗を恐れずに挑戦してきたからこそ、今の自分があると思っています。

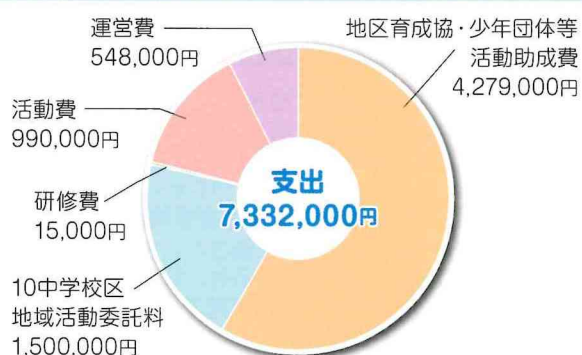
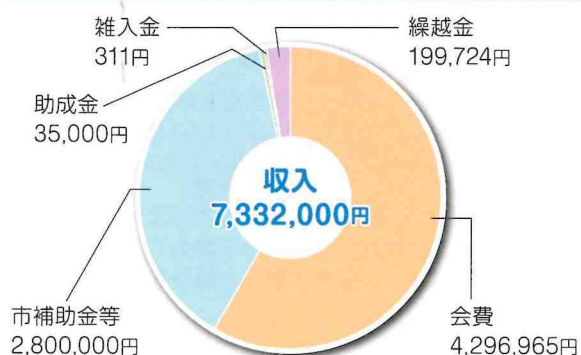
失敗したから諦める。失敗したくないから諦める。これでは成長できません。皆さんも失敗を恐れずに、成長のために「失敗しよう!」と思って、一歩踏み出してみませんか?

令和6年度 収支決算



令和7年度 理事会の様子

令和7年度 収支予算



広報「はばたき」が市ホームページで見られます

広報「はばたき」は、新発田市のホームページでも次の①又は②の方法でご覧いただくことができます。これまで市民の皆様からのご理解とご支援をもとに歩んでまいりました当市民会議の活動を、どうぞご覧ください。

- ① 新発田市のホームページ (<https://www.city.shibata.lg.jp/index.html>) を開いて、サイト内検索の欄に「はばたき」又は「1000916」と入力する。
- ② 右の二次元コードをスマートフォン等のカメラで読み込む。



あとがき

「暑さ寒さも彼岸まで」のことわざどおり、猛暑の夏はどこへやら……。実りの秋を迎え、ほっとひと息つける時節となりました。

新発田青少年健全育成市民会議では、関係者各位のご尽力により、今年度前半の行事を無事に開催することができました。本号にてご報告させていただきますが、特に「わたしの主張」は多くの方々にお届けしたい内容です。中学生の素直な気持ちは、私達に多くの気づきを与えてくれます。聞く力を存分に発揮して、いろいろな年代の思いを理解していきたいと思う今日この頃です。

本号発行に際し、ご協力を頂いた皆様に感謝申し上げます。

(編集委員 遠山 明美)

発行

新発田青少年健全育成市民会議

事務局

新発田市青少年健全育成センター

住所

新発田市緑町2-6-36

電話

0254-26-0897

編集委員

井澤 栄一郎 浅倉 真美
遠山 明美